

2019年4月版

予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守ろうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み ☑	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	(満年齢)
不活化ワクチン B型肝炎 (母子感染予防を除く)	定期	□□□	①→②→③	④												
生ワクチン ロタウイルス	任意	1価 □□ 5価 □□□	①→②→③	④												
不活化ワクチン ヒブ	定期	□□□□	①→②→③	④												
不活化ワクチン 小児用肺炎球菌	定期	□□□□	①→②→③	④												
不活化ワクチン 四種混合(DPT-IPV) 三種混合・ポリオ	定期	□□□□	①→②→③	④												
生ワクチン BCG	定期	□	①													
生ワクチン MR (麻しん風しん混合)	定期	□□	①													
生ワクチン 水痘 (みずぼうそう)	定期	□□	①													
生ワクチン おたふくかぜ	任意	□□	①													
不活化ワクチン 日本脳炎	定期	□□□□														
不活化ワクチン インフルエンザ	任意	毎秋														
不活化ワクチン A型肝炎	任意	□□□														
不活化ワクチン HPV (ヒトパピローマウイルス)	定期	□□□														
不活化ワクチン 髄膜炎菌	任意	□														

不活化ワクチン 定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。 定期予防接種の対象年齢

生ワクチン 任意 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。 任意接種の接種できる年齢

同時接種: 同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。 国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。 詳しい情報は <http://www.know-vpd.jp/> VPD 検索

●次にほかの種類のワクチンが接種できるのは、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日から、生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日からです。

(※) 添付文書に記載のないおおすすめ接種時期 (※) 添付文書に記載のないが、接種を推奨

2019年4月版

0歳の予防接種 スケジュール

ワクチンデビューは、生後2か月の誕生日

0歳の赤ちゃんを VPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、生後2か月になったらできるだけ早くワクチンを受けることが大切です。このスケジュールは NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。

ワクチン名	接種済み ☒	誕生	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳
 B型肝炎 (母子感染予防を除く)	定期	☐ ☐ ☐		①	②					③				
 ロタウイルス	任意	1価 ☐ ☐ 5価 ☐ ☐ ☐		①	②									
 ヒブ	定期	☐ ☐ ☐ ☐		①	②	③								
 小児用肺炎球菌	定期	☐ ☐ ☐ ☐		①	②	③								
 四種混合 (ジフテリア・百日せき 破傷風・ポリオ)	定期	☐ ☐ ☐ ☐		①	②	③								
 BCG	定期	☐					①							
 MR (麻しん風しん)	定期	☐ ☐												
 水痘 (みずぼうそう)	定期	☐ ☐												
 おたふくかぜ	任意	☐ ☐												
 日本脳炎	定期	☐ ☐ ☐ ☐												

必要回数を接種するために生後2か月にになったらすぐに同時接種で受けましょう。

生後3か月になったらすぐに同時接種で受けましょう。

集団接種の地域では、同時接種で受けられません。

標準的には3歳から接種しますが、生後6か月から受けられます。

0歳のうちに3回接種が必要。3回目は、2回目から4-5か月の間隔をあけて受けます。

1価ワクチンと5価ワクチンがあります。初回は遅くとも生後14週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けましょう。

3回目を生後6か月までに受けるようにしましょう。

長期にわたって予防効果を維持するためには追加接種が必要です。1歳代の追加接種を忘れずに受けましょう。

1歳の誕生日が来たら同時接種で受けましょう。ヒブ・小児用肺炎球菌・四種混合・MR・水痘・おたふくかぜの6本を同時接種で受けることもできます。

2019年2月作成

 不活化ワクチン	 注射・スタンプ式	定期	定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。
 生ワクチン	 経口	任意	多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。

定期予防接種の対象年齢
任意接種の接種できる年齢

🔗 おすすめの接種時期(数字は接種回数)

●次にほかの種類のワクチンが接種できるのは、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日から、生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日からです。

同時接種：同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。
国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

詳しい情報は <http://www.know-vpd.jp/> **VPD**

検索

© NPO法人VPDを知って、子どもを守ろうの会